

【研究種別欄, この欄は担当が修正する可能性があります】

赤ちゃんふれあい体験学習に関する調査

佐々木知映 古川照美 佐藤愛

背景

子育ての喜びや命の尊さや家族の絆の大切さを理解する機会として推進されている「赤ちゃんふれあい体験学習」であるが、効果実態が明らかにされていない

目的

赤ちゃんふれあい体験学習が、参加した小・中学生の向社会的行動と親性準備性の発達を促すかを明らかにする

研究内容・方法

調査年は、COVID-19感染拡大予防のため、赤ちゃんふれあい体験学習を実施できない市町村が多かったため、学習参加前のベースライン調査とした

- 赤ちゃんふれあい体験学習参加予定の小・中学生に自記式質問紙(学年, 性別, 家族, 乳児が好きか, 乳児との関わり, ボランティアへの参加, 向社会的行動尺度, 親になることへの準備状態測定尺度)を配布した
- 学年等の項目と各尺度について, t検定または一元配置分散分析を行った
- 各尺度間の相関は, Pearsonの積率相関係数を用いて分析した
- 重回帰分析により, 向社会的行動または親性準備性に関連する要因を検討した

結果・考察

265名中249名より回答があり(回収率94.0%),
記入漏れのない232名を解析対象(有効回答率87.5%)とした

- 尺度間の相関係数=0.417($P < 0.001$)で, 中等度の正の相関があった
- 向社会的行動尺度得点、親性準備性尺度得点について学年別、性別、家族で有意差はみられなかった
- 乳児が好き、乳児との関わりがある方が、向社会的行動尺度得点、親性準備性尺度得点が高かった
- ボランティアの参加があることを考慮しても、乳児との関わりは向社会的行動に関連していた
- 乳児が好き、乳児との関わりがあることは、向社会的行動や親性準備性に関連していることが示唆された

向社会的行動と親性準備性の発達に
「乳児との関わり」に関連あり



赤ちゃんふれあい体験学習は、向社会的行動と
親性準備性の発達を促す可能性が高い